

# 風土を温める あたた

シリーズ 高山の文化財②

## 【県指定文化財】円空作 金剛神

寛永九年（一六三二）美濃国に生まれた円空は、一生のうちに十二万の仏を造ることを発願し、木像を刻みながら、北海道にまでおよぶ諸国を訪れました。現在分かっているだけで、五千体を超す像が全国に伝えられています。

円空の木像は、「鉦ばつり」ともいわれるように、鉦で割ったそのまの断面を造形に生かしているところが特徴です。円空の仏像は、農家の神棚や道ばたの祠などにもまつられ、「エンクさま」として慕われてきました。



円空作 金剛神

飛騨地域にも数度にわたって訪れ、円熟期の優れた像が数多く遺されています。特に丹生川村の千光寺には、俊乗和尚と意気投合して長く滞在し、両面宿儺像など数多くの作品を遺しています。

この金剛神像は、高さがそれぞれ二メートルを越える一対の大作で、市内千島町にある飯山寺にまつられていたものですが、現在は高山市郷土館で展示されています。

金剛神は、執金剛神・金剛手、金剛力士などとも言われ、手に金剛杵を執って仏法を護る守護神のことです。この像は勇ましい金剛神の気迫を受けて造られた力作です。ほかの多くの円空仏と同様に、背面は平板のまま、正面から鑑賞されるように造られています。衣文が左右から上方に向かう大胆な切り込みによって抽象的に表現され、それに導かれて目を上げると、荒々しい中にも慈愛に満ちた神像の表情があり、円空の造形の素晴らし



円空肖像画

さに感嘆させられます。

飯山寺は、中世の山城「飯山城」の城跡の近くにあり、この像のほかにも観音堂、弁財天社、絵馬額など多くの文化財が伝えられてきました。

**所有者** 飯山寺（千島町）

**展示場所** 市郷土館

**時代** 江戸時代（十七世紀）

**寸法** 一対 高さ二一〇センチ

【見学】市郷土館受付へ 入館料〃  
大人三〇〇円、小中学生一五〇円  
（市民無料）